

# 芦安中学校（後期）自己評価書

平成30年1月24日  
南アルプス市立芦安中学校  
校長 石原 敬彦

## 1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケート及び保護者対象アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月9日）

## 2 学校評価の分析と改善方策

### (1) 教育目標

#### 〔達成状況〕

- ① 本年度夏季休業以降の教育活動を振り返った時、各活動が学校教育目標に沿って実施されており、行事等も3年の入試関係や年度末関係を除くと、この2学期末までで主要なものを無事終了した。成果や達成状況も個々の事後アンケートや感想から読み取ることができるが、例年と比べても概ね良好な状況にあると言える。昨年度同期や本年度前期と比較しても評価は高くなっている。

#### 〔改善策〕

- ① 格段に劣る項目が見当たらないので、今後とも全職員で学校教育目標を意識し理解しあって、目標の達成に向けて、「芦中教育」としての日々の教育活動に組織的・継続的に取り組んでいきたい。
- ② 来年度は小中一貫校に向けて教育目標も新しいグラウンドデザインに応じたものになっていくと思うが、学校教育目標達成に向けて取り組んでいきたい。

### (2) 学校運営

#### 〔達成状況〕

- ① 「校務分掌が機能しているか」については、昨年度同期や本年度前期に比べ、評価はやや高くなってきている。「職員会議」についても学校運営上ほぼ適切に運営されていると言える。
- ② 校内研究については、2つの柱（英会話科と英会話活動の推進・発展、言語活動の充実・発展）を中心に取り組んでいる。「英会話科」には、全職員で指導にあたった。5年目となり、小学校からの積み上げや過去4年間の成果から生徒の英会話科に対する意欲や姿勢は良好である。英会話科の授業にとどまらず学校生活の一部として英語を使うなど、日常化できる取り組みを継続してきた。また、実践的コミュニケーション能力育成のために、留学生と英語でのやり取りに力を入れてきた。また、留学生に芦安中や地域を紹介する授業では、まず日本語で紹介文を作成し、次に英語に訳し、そして英語で発表するという段階を踏み英会話力の向上に取り組んだ。一方、「言語活動の充実」では、教科のねらいを達成させるため、意図的に「言語活動」の場を設定し、より深い思考になるよう授業力の向上に努めた。今年度は2学期までに、元岳陽中校長 佐藤 雅彰先生、成城大教授 岩田一正先生を2回ずつ招聘し、主体的で対話的な深い学びについて研究し、生徒の学びを支える教師のファシリテーターとしての役割を、授業実践をする中で指導していただいた。国内外で有名な

先生方から「少しずつ授業力が向上している。」等のおほめの言葉をいただくなど、まだまだ課題はあるものの研究の成果が表れてきている。このことは後述する「授業には、意欲的に取り組んでいますか。」「授業はわかりやすいですか。」について生徒の評価が向上していることと密接な関係があると言える。また、生徒同士の学び合いには他校にない良さがあると講師の先生方や南アルプス市教育委員会指導主事から評価を受けている。変化の激しい社会を生き抜くための力を育てることに主眼を置いた授業づくりにより一層努力していきたい。

- ③ 「報告・連絡・相談」はかなり機能していると言える。しかし、対外的なことや重要事項については更にきめ細かく「報告・連絡・相談」を機能させていく必要性を感じる。

#### 〔改善策〕

- ① 3学期以降も少ない職員がいくつもの分掌を抱えているが、職員同士が連携を取りながら、学校運営にあたっていきたい。1, 2学期の全職員による指導での成果を確認し、相互補完しながら学校全体で取り組む意識を更に高めたい。
- ② 「英会話科」については、情報や自分の考えを形成・整理・再構築し、伝え合うことにより、より深い学びになるような研究を更に進めたい。
- ③ 「言語活動の充実」「授業力向上」については、3学期も講師の先生方を1回ずつ（計2回）招聘し、全職員が共有授業を行う中で授業力の向上につなげていきたい。講師の先生方の助言をもとに日々の授業実践に努めていきたい。変化の激しい社会を生き抜くための力を育てることに主眼を置いた授業づくりにより一層努力していきたい。
- ④ 教育活動が常に全職員周知の中で進められるよう、更に、相談・協議し、教職員が高め合える職員室にしていきたい。そのために企画会議や職員会議の充実も図っていきたい。

### （3）学習指導

#### 〔達成状況〕

- ① 「授業の進捗」については、どの教科も良好であった。しっかりした授業計画と授業時間の確保の結果であると思われる。
- ② 授業に関して、「授業には、意欲的に取り組んでいますか」「授業は、わかりやすいですか」という項目においては、生徒の評価は昨年度同期より向上している。また、「授業では、学び合いの作法を意識し、実践していますか」という項目は今年度新設した項目であるが、生徒の評価は今年度前期より向上している。教師の評価も「あなたは、生徒の関心意欲を高める授業をすすめている」「あなたは、生徒が主体的に学ぶ課題解決的な学習を行っている」「あなたは、生徒が学び合う授業を展開している」「あなたは、個に配慮した授業をすすめている」のすべての項目で昨年度より向上している。校内研を通じて、日々の授業実践に取り組んだ結果であると言える。
- ③ 道徳については、教育課程にそった授業は今まで通りにしっかり行い、『私たちの道徳』を活用することを心がけた。しかし、道徳の授業で「心から考えたり感じたりしていますか」について、教師側が肯定的であるのに対し、昨年度同様、生徒に若干の否定的評価がある。道徳の教科化に向けて、これからも計画的に取り組みつつ、常に踏み込んだ検証が必要である。
- ④ 「総合的な学習の時間」についても生徒に若干の否定的評価が見られる。「総合的な学習の時間」の

ねらいについても一度生徒と確認し合うことも必要である。

- ⑤ 英会話科の授業については、これまでの指導を振り返り、「全職員で指導にあたる英会話科」「実践的コミュニケーション能力の育成」などを柱に2学期から、見直しと改善をしてきた。記述からは、生徒・教師ともに「英会話科」について共通の方向性を持ち、真剣に取り組んだ様子が見える。ただ、少数ではあるが、「英会話科」の授業に意欲的に取り組めなかった生徒がいる。理由等を明らかにするなど検証が必要である。
- ⑥ 家庭学習については、PTA総会での「家庭学習の手引き」を用いてのお願い、学級通信等で発信はしているが、生徒アンケート「宿題の他にも家庭学習をしていますか。」及び保護者アンケートの「お子さんは家庭学習をしていますか。」ともに数値が低く、家庭学習が定着していない現状がみられる。

### 〔改善策〕

- ① 全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果等を分析し、生徒個々と本校の課題を把握する中で、PDCAサイクルの手法によって全教師で授業改善に努めてきた。今年度取り組んだ「全教師による英会話科の指導」や「言語活動（学び合い）」は継続していきたい。また、4回にわたり（年度末には6回になる予定）外部講師を招聘して指導を受けたが、より多角的な手立てや検証の過程において、非常に効果的であったので継続していきたい。また、一人一人の生徒を大切にするなど授業だけでなく教育活動全般に関わる指導助言もいただいた。生徒一人一人の学力向上につながる指導を全職員で模索していきたい。
- ② 道徳の教科化に向けた研究を進める中で、「議論する道徳」「考えを深める道徳」に視点をあて、道徳の時間だけでなく、学校の内外の機会を通して「しなやかな心」の育成にあたる。道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、学校教育全体を通して指導を行っていく。特に本校では「全校登山」という他校にはない自然体験活動（集団宿泊活動）があるので、「しなやかな心の育成」という視点で改めてスポットをあてて取り組んでいきたい。
- ③ 「総合的な学習の時間」の取組が充実した学校では、学力も高いと言われる。本校の特色とも言える体験活動等の取組を更に充実させ、各教科等で培った力を「総合的な学習の時間」の中で活用させるなど、各教科等を横断した力を身に付けさせるため、今まで以上に教科・領域の連携を図りたい。そして、探究的な学習や課題解決学習については本校の生徒に今以上に組み込みたい学習であるので、総合的な学習の時間の授業時間のあり方について、全職員で再認識した上で指導にあたりたい。
- ④ 英会話科における「全職員で指導にあたる英会話科」「実践的コミュニケーション能力の育成」は引き続き、指導の大きな柱として継続していきたい。2学期の取組は本校の研究テーマ「伝え合う力の育成」と大きな関連があった。英会話科だけでなく他教科・領域との関連を図りたい。そして、最終目標はグローバル人材の育成であることを踏まえ、次のステップにつなげていきたい。
- ⑤ 家庭学習につながる授業を展開するとともに、これからの社会をたくましく生き抜くために、主体的に学ぶ姿勢が重要であることを生徒にも家庭にも発信していき、協力体制を築いていきたい。地道ではあるが「テスト取組表」の中での励ましや助言等を引き続き行う中で、家庭からの言葉をお願いするなどの取組を行う。また、家庭学習につながる授業の研究もあわせて進めていく。

#### (4) 生徒指導

##### 〔達成状況〕

- ① 学校生活について、ほぼ全生徒が「楽しい生活、ほぼ楽しい生活」と回答している。ただ、ごく少数であるが「あまり楽しくない」と回答した生徒がいる。「学年に仲良くしている友だちがいますか」は全生徒が「多くいる（全員）」と回答している。「いじめや仲間はずれ」に関しても全生徒が「ない」と回答している。
- ② 一方、「困った時に相談できる友だちがいる」「困った時に相談できる先生がいる」に「いない」と回答している生徒がまだ若干名いる。
- ③ 「気持ち良いあいさつ」「場面にあった適切な言葉づかい」については教師・生徒とも概ね高評価である。「場面にあった適切な言葉づかい」については、前期集計時点より改善されている。

##### 〔改善策〕

- ① 生徒が楽しい学校生活を送れていることは、非常に大切な事であるので、継続して、普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしていきたい。ごく少数「あまり楽しくない」と回答した生徒がいる。その原因が人間関係なのか、学習面や部活動なのか明確にして、すぐに対応していく。必要に応じてS Cの先生にも相談に乗っていただくなど多角的に対応していく。「いじめ等」についても、現状に安心することなく、生徒の小さな変化を見逃さないなど、生徒理解に努めていきたい。また、道徳教育の充実や居場所づくり・絆づくりにも努めていきたい。
- ② 「相談できる先生がいない」と回答した生徒がまだ若干名いるが、2学期以降、相談体制を充実させ、全生徒が生活面や学習面について教師と面談を行い、日常的な会話も増えてきている。今後も日頃の教育活動を通しての信頼関係の構築を進めるとともに、教育相談が十分機能できるよう教師力を高めていきたい。また、継続して教育相談の機会を設定していきたい。そして、日頃の教育活動を通じて信頼関係を築くことが大切であることを再認識して日々の教育活動にあたりたい。
- ③ 適切でない言葉が発せられたときは、その場で指導する。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導を継続していく。また、「あいさつ」は芦安中の誇るべき伝統であることを踏まえて、生徒会としての取組も充実させる等、生徒の意識を高めていきたい。

#### (5) 学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

##### 〔達成状況〕

- ① 2学期最大の学校行事「白峰祭」「芦安文化祭」は、生徒の意欲や計画的な取組、保護者並びに多くの関係者の御支援をいただき、成功裏に終わることができた。教職員アンケート「行事は生徒の人的な力を育てるものとなっている」、生徒の「学校行事には意欲的に取り組みましたか」とも全員肯定的回答であった。特に、生徒の評価が高く、生徒自身が充実感や達成感が持てたことがわかる。
- ② 「部活動」・「太鼓」・「合唱活動」・「生徒会活動」についての生徒アンケートでは、肯定的評価のA・

B評価の割合が非常に高い。意欲的に取り組んでいたと言える。ただ、「合唱活動」と「生徒会活動」にはやや否定的な回答(C評価)の生徒がそれぞれ3名、1名いる。少数の意見を汲み取り、これらの活動に全員が意欲的に取り組めるような配慮が必要である。

- ③ 教職員も、諸活動の生徒の取り組みに対する評価は全員が肯定的で、その成果も期待している。

### 〔改善策〕

- ① 学校行事については時間や手間もかかるが、生徒の自主性を育て、自己肯定感を高めるためにも、現状のようにPDCAサイクルで「よりよい方向性」を模索していきたい。その都度、生徒の実態も変化していくので伝統を大切にしながらも柔軟に計画していきたい。
- ② 行事が終わった時の達成感を大切にしながらも、「良かった」で終わらず、「できたこと・できなかったこと」を生徒に意識させ、生徒自身の企画力や先見性を身に付けさせたい。

## 〔6〕家庭・地域との連携および小中の連携強化

### 〔達成状況〕

- ① 参観の機会である、授業参観・学校林の植樹・災害時引き渡し訓練・教育を語る会・全校登山の支援・PTA奉仕作業・白峰祭・芦安文化祭等について、多くの保護者の参加・出席を得て、芦安中の特色や良さを理解していただいた。御支援に感謝すると同時に、学校に対する期待も大きいことを改めて実感した。これは「学校は授業や行事等において参観の機会を設けている。」に保護者全員が肯定的に評価していることからわかる。
- ② 学校と家庭の連携や連絡については、学級通信やHPで学校の今を随時発信した。また、学校便りを充実させ、学校の現状だけでなく、本校の教育の方向性を発信してきた。そして、保護者からの質問等にも回答してきた。その結果、「学校は、保護者の声を教育活動に活かしている。」について保護者の多くが肯定的な評価であった。また、「学校からの通信や通知から、学校の様子わかりますか。」についてもほぼ全員が肯定的な評価であった。ただ、少数ではあるが、やや否定的(C評価)の評価があった。通知が渡っていないのか・HP閲覧の環境なのか・内容の更なる改善が必要なのか検証しながら対応していきたい。
- ③ 「地域の行事・活動や組織との積極的な関わり」については、保護者も教職員もほぼ全員が肯定的にとらえている。今後もPDCAサイクルで改善を図りながら同様な活動を続けていきたい。
- ④ 「PTA活動は、生徒の教育活動のために有機的に機能していますか」についても、ほぼ全員が肯定的な評価であった。過去に機能していないとの評価がいくつか寄せられた経過もあったが、他校にない小中合同のPTA活動が、今後も児童生徒の為に機能していくことを願っている。
- ⑤ 小中連携については、本年度も諸行事の合同実施並びに英会話科の取組を中心として行われ、小中学生の交流も深められてきた。また、小学生の前で中学生が発表することは、ほどよい緊張感があるとともに生徒の自尊感情の醸成に大きく関わっている。なお、行われた行事等は以下のとおり。

- ・小中合同避難訓練と引き渡し訓練      ・教育を語る会      ・小中連携会議（全教職員 3回）
- ・英会話科推進会議（関係教員 4回）      ・小中連絡会，小中コ保連絡会（管理職等 12回）
- ・芦安文化祭・合同朝の会      ・イングリッシュゲーム      ・ハロウィンパーティ
- ・英語絵本の読み聞かせ      ・合同合唱      ・やきいも集会      ・小中合同地区別集会（2回）

〔改善策〕

- ① 学校からの情報発信等の充実については今後も継続する。更に生徒一人一人の成長を願っての家庭との連絡がより密にできる環境を構築する。
- ② 個々の生徒の課題（家庭学習・生活習慣等）については，保護者との連絡を取り，それぞれの役割を意識しながら，学習習慣の定着や健全な生活習慣の育成を図っていく。
- ③ 今後も地域の人材の有効な活用や地域行事の参加を通して，地域社会との交流や協力体制に努め，生徒たちが芦安に誇りと自信を持って生活していけるよう，特色ある芦安中教育の基盤となる環境整備（地域人材バンク等）を活用する。そして，最終的に地域に貢献できる生徒の育成につなげていきたい。
- ④ 児童生徒の交流や教職員同士の交流は大変充実しているので，小中での課題を共有し，9年間を見通した教育課程の編成に着手する。そして，互いに学習指導力や生徒指導力を高め合いながら芦安小中学校の教育に携わっていきたい。

**（7）その他**

- ① 4月から2学期終了時点まで，生徒理解，学習指導など見直し課題に対応してきた。その中で，生徒や保護者の多くから高評価をいただいた。少数の否定的な評価に耳を傾け，生徒の実態を把握し，全職員で課題解決しながら学校教育を推進していくことを継承していきたい。
- ② 芦安以外のところから多くの生徒が通ってきてくれていることは大変嬉しいことである。今後，目指す生徒像・学校像について共有できる場や語り合う場の設定が今まで以上に必要になってくる。PTA活動や学校応援団との連携を図りながら推進していきたい。